

第1回香取地区地域協議会 記録

1 日 時 令和6年1月11日(木) 午後2時から午後4時まで

2 場 所 北総教育事務所香取分室 大会議室

3 出席者 14名/14名

4 概 要

(1) 座長の選出

座長に筑紫委員を選出

(2) 地域協議会設置の趣旨

地域協議会設置の趣旨について事務局より説明

【座長】

ただいまの説明について、質問や確認事項があれば是非お願いしたいがいかがか。特になければ、次の議題に移る。

(3) 「県立高校改革推進プラン」及び「第1次実施プログラム」について

資料3「県立高校改革推進プラン及び第1次実施プログラムについて」に基づき、同プラン及び同プログラムの内容について事務局より説明

【座長】

事務局からの「プラン」及び「プログラム」の説明について、質問や資料の確認などあればお願いしたいがいかがか。

【委員】

私は行政の人間であり、学校のことについてほとんど無知であるため、見当違いであれば申し訳ないと思う。

行政での業務としては、公共交通や移住定住、地域人口減の対策に取り組んでいる。香取市において、市民の足である路線バスやコミュニティバスでは、「2024年問題」とされる運転手不足が生じている。公共交通は市民のものであり、特に、交通弱者といわれる、お年寄りや免許を持たない子供たちにとっては、大変な問題である。小・中学校に通学する生徒のために、スクールバスを運行させている地域もあるが、高校生は、通学のための手段が無いことで、進路先が限定されてしまうと、将来の選択肢にも大きく関わってくると考える。通学のための手段が無いことで、高校生が希望する進学先を諦めることがないようにするなど、公共交通の観点からの議論も必要になるのではないか。

【座長】

人口減少に関しては、どの市町でも大きな問題だと思う。それに対して、県立高校だけでなく、行政や地域が一体となってより良い方向になるような意見が出せればと思う。また、この協議会の趣旨でもあると思う。

他にいかがか。

【委員】

私の方は、行政という立場で参加させていただいている。高校の学区について知識がない。今後、考えていくうえでの参考に教えていただきたい。

千葉県内には学区が9つあるが、学区というのはどのようなものであるか、どのような形で学区の位置が決定したのか。中学生が高校を選択する際に、学区の影響はあるのか。参考までに教えていただきたい。

《事務局》

現在、学区が9つあるが、元々はより細かく学区があったが、徐々に広がり今の形になっている。第

5学区では、銚子市、香取市、匝瑳市、旭市、神崎町、東庄町、多古町となっており、細分化した形で今回、香取地区地域協議会を開催したところである。

なお、入試に関しては、女子校を除く全日制普通科では第5学区在住の生徒は、第5学区に所在する県立高校だけでなく、隣接する学区である第4学区と第6学区に所在する県立高校を志願することが可能である。

ただ、女子校や、総合学科、専門学科、その他の課程に関しては、全県一区となっており県内どこからでも志願することが可能となっている。基本的には、学区はこのような志願に関してのとらえ方になっている。

また、全国を調べると、学区がない県もある。学区がある千葉県では、中学生にとってどのような影響があるかという点、志願できる県立高校が制限される。そのため、学区を廃止する意見もある。しかし、学区がなくなると都市部への流出が増加し、地元へ残らなくなってしまうという懸念もある。

他にも、先ほど交通に関する御意見を頂戴したが、私立高校では駅からスクールバスを出している学校が多くある。県立高校もそういったことに関しても考えなければならない。

【委員】

承知した。

【委員】

(4) 香取地区の県立高校の現状と課題

資料4「香取地区地域協議会 基礎資料」に基づき、香取地区の県立高校の現状と課題について、また、参考7「地区内の県立高校の学校案内」を基に、各校の魅力ある取組や教育活動を事務局より説明

【座長】

事務局から「香取地区の県立高校の現状と課題」について説明していただいた。

人口の減少に関しては、非常にリアルである。また、その中で各学校の取組等を御紹介していただいた。御確認いただいて質問や資料の確認などあればお願いしたいがいかがか。

【委員】

資料4の14ページについて、第5学区から見て第4学区へ流出する生徒が一定数いると思うが、どうか。

【座長】

互いの学区への流出入がある中で差し引いた形で表示された数値ではないか。第4学区と第5学区では第4学区への流入よりも、第5学区への流入の方が74名多くなっていることと考えるが、事務局どうか。

《事務局》

そのとおりである。

【委員】

承知した。

【委員】

学校案内を御覧いただいたと思うが、多古高校について補足説明させていただく。

他の高校と違い、最寄り駅がないため、バスを利用して学校に通うことになる。また、路線の廃止に伴い、生徒の減少に拍車をかけている所である。また、全校生徒の3割程度が保護者送迎で登下校しており、バイク通学も60名程度許可をしている。そうでないと登下校の交通手段がなくなってしまう。

園芸科は全県一区であるが、生徒募集に苦しんでいる状況にある。また、普通科に関しても他の地域から来るには位置的に難しいため、地元頼みになってしまうのが現状である。

また、他の3校と違うところでいうと、地域と共同して学校を運営していく制度である「コミュニテ

ィ・スクール」を千葉県で最初に導入し、今年で12年目になる。千葉県でも地域との連携を深めるように推進しているが、そういった意味では先進的な学校である。多古町からも様々な支援をいただいております、これだけ外部の方と協力している学校は他にはないと思う。

人口減少が進む中で、地域と一体となった取組はこれから増えていくと考える。

【座長】

「コミュニティ・スクール」に関して、生じる効果や導入する利点などあれば教えていただきたいがいかがか。

【委員】

小規模校では職員の数も少ないため、生徒を指導する上でマンパワーが必要になるときに、地域の方にお手伝いいただくのは職員にとって大変良いことである。また、生徒にとっても、こども園や小中学校、地域のイベントなどに生徒が参加することで、主体的に行動することができるいい機会になっている。

(5) 質疑

【座長】

ここまで、所定の議事について進めてきたが、全体を通じて質問があれば伺うがいかがか。

【委員】

質問ではないが、せっかくの機会なので、中学校の現状を御説明させていただきたい。個人的には、適正規模・適正配置に関しては、進めていただきたいと思っている。この地区は当然応援しているが、客観的に見て適正規模・適正配置は必要であると考え。先ほど事務局より説明があったが、この地区に限らず入試の倍率が1倍を切っている。中学校現場で生徒とその保護者は受け入れられるという意識になっている。

学力に差がある中で、入学しても高校生活が苦しくなってしまうと予想される。また、そこを含めて進路指導をしているが、生徒とその保護者に対して昔ほど強く言えない状況もあるため、適切な進路指導がしにくい現状である。

また、各高校に魅力をもっていただきたいと感じており、いくら近い高校でも、魅力がないと中学生は離れていってしまうのを現場で感じてきた。

他にも私立高校についても考える必要がある。施設・設備面では公立高校は厳しいところもあり、部活動等を目的に他の地区や県をまたいで私立高校へ進学する生徒もいる。その辺も含めた上で、色々と検討していただけると、中学校としてはありがたいと考えている。

(6) その他

【座長】

他になければ次に進む。その他、議事はないか。

(意見なし)

特になければ、今日の内容を振り返ると、地域協議会設置の趣旨、県立高校改革推進プラン及び第1次実施プログラムについて、県立高校の現状と課題について、事務局からの説明により、情報共有ができた。

今後、少子化で子供の数は確実に減っていき、この地区においても例外ではないこと。もう一つは地区内においても適正規模を下回っている学校がいくつかあること。こういったことを踏まえて、地元として県立高校の将来をどのように考えるか、また県立高校だけでは良い方策が出ないと思うので、小中学校の状況や、街づくりにおける県立高校の在り方などを含めて、市町はどうかかわっていけるか。厳しい状況の中ではあるが、知恵を出し合って新たな展開にもっていけるチャンスでもある。そういった視点で今後、議論を重ねていけないかと思うが、事務局いかがか。

《 事務局 》

県立高校の在り方については、市町の街づくりの方向性や小中学校の将来計画とも密接に関連していると考えている。そこで、市役所・町役場から選出された委員の方には、今後の街づくり計画や地域活性化に向けた対策について、市町の教育委員会から選出された委員の方に、市町の小中学校の将来計画について御説明いただき、このことも踏まえて第2回では議論をお願いしたいと思う。

【 座 長 】

ただいま事務局より、市町の行政及び教育委員会からの説明を踏まえて、次回協議をしていただきたいとの提案がありましたが、いかがか。

(意見なし)

では、市町の行政機関及び教育委員会については、次回の協議会にて、御説明をお願いする。そのうえで県立高校の在り方委について次回、議論を深めたいと思う。

【 座 長 】

その他、議事はないか。

(意見なし)

ないようなので、進行を事務局にお返しする。